



Rotary
2019-20 年度 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ
2019-20 年度国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー
RI 2630 地区 岐阜東濃グループ



例会プログラム

1. 開会点鐘
2. 国歌斉唱 ソング「奉仕の理想」
3. ゲスト・ビジターの紹介
4. 食事と交歓
5. 会長の時間
6. 12月のお祝い
7. 雑誌の紹介 情報・研修委員会
8. 出席報告 例会運営委員会
ニコボックス発表 親睦委員会
9. 委員会報告、幹事報告
10. 卓話 波多野一夫 パスト会長
IDM委員会
11. 閉会点鐘

会長の時間



2019-2020 年
第 62 期 中津川ロータリークラブ

会長 吉川 義康

『台風 19 号災害について』

今年 10 月 12 日に関東地方を縦断した台風 19 号は、東日本の広い範囲に大雨や暴風をもたらした。国土交通省によると、河川の決壊は 7 県の 71 河川、140 箇所上がる。被害をもたらした一因は、河川流域での降水量の多さにある。気象庁によると台風 19 号の降雨で、12 時間降水量が観測史上最高を記録した地点は 120ヶ所になる。とくに甚大な被害が生じた阿武隈川とその支流だけで 52ヶ所の堤防が次々と決壊。流域で約 1万2600ha が浸水した。これは、南から北に向かう阿武隈川の流れに並行して台風 19 号が北上したこととみられている。降雨により水位が上がった下流では、増水した上流からの水を流しきれなくなる。加えて、本流の水かさが増すと支流の水が合流地点で流れ込みにくくなり、支流が溢れる「バックウォーター現象」が

起こった。阿武隈川の決壊のほとんどは支流で発生した。阿武隈川の河川整備計画は、戦後最大と言われる 1986 年（昭和 61 年）8 月の洪水と同程度の流量を安全に流すことを想定している。国は優先度の高い地域から整備しているが、予算の制約があって追い付けない。近年の自然災害はもはや、これまでの整備計画や対策では対応しきれない状況になってきた。

国土交通省は、直轄事業の木曾川流域の砂防事業を「被害を抑えるためのソフト対策」として、土石流危険渓流に雨量計、土石流センサー、監視カメラなどを整備しデータを市町村に伝達している。岐阜県は、「公共通常砂防事業」「公共急傾斜地崩壊対策事業」など治山事業を進めている。中津川市は、今年 3 月に「災害に強いまちづくり計画」の第 2 期計画で、「自助」「共助」「公助」の考えを基本とした取り組みを発表した。

私達が住むこの地域は大部分が花崗岩類で形成されていることから、風化による崩壊地が多く、多量の土砂が落合川、子野川、中津川などに流れ出している。今後、台風 19 号のような大雨及び異常気象による豪雨などによる災害が心配である。



御嶽山朝のドラマを三回で掲載します。第一回 12 月 13 日 6:27 分頃
撮影 原 眞平君